

日本文学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 学期	曜日	講時	頁	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
日本文芸形成論特論Ⅰ	日本文学史における和歌	2	横溝 博	2学期	水	4	1	日本文芸形成論研究演 習Ⅳ
日本文芸形成論特論Ⅱ	日本文化史における歴史文芸	2	佐倉 由泰	2学期	水	5	2	日本文芸形成論研究演 習Ⅳ
日本文芸形成論特論Ⅲ	「日本の文学理論」を読む	2	仁平 政人	1学期	水	4	3	日本文芸形成論研究演 習Ⅲ
日本文芸形成論特論Ⅳ	西行の和歌表現とその詩想	2	平田 英夫	集中(1学期)			4	国文学特論Ⅲ
日本文学総合演習Ⅰ	日本文学史の考究とその論述	2	佐倉 由泰、横溝 博、仁平 政人	1学期	火	4	5	国文学研究演習Ⅰ
日本文学総合演習Ⅱ	日本文学史の考究とその論述	2	佐倉 由泰、横溝 博、仁平 政人	2学期	火	4	6	国文学研究演習Ⅱ
日本古典文学研究演習Ⅰ	『源氏物語』の探究	2	横溝 博	1学期	月	5	7	国文学特論Ⅰ
日本古典文学研究演習Ⅱ	『源氏物語』の探究	2	横溝 博	2学期	月	5	9	国文学特論Ⅱ
日本古典文学研究演習Ⅲ	『太平記』の表現形成	2	佐倉 由泰	1学期	木	2	11	日本文芸形成論研究演 習Ⅴ
日本古典文学研究演習Ⅳ	『太平記』の表現形成	2	佐倉 由泰	2学期	木	2	12	日本文芸形成論研究演 習Ⅵ
日本近代文学研究演習Ⅰ	戦後の短編小説の研究	2	仁平 政人	1学期	水	2	13	日本文芸形成論研究演 習Ⅰ
日本近代文学研究演習Ⅱ	戦後の短編小説の研究	2	仁平 政人	2学期	水	2	14	日本文芸形成論研究演 習Ⅱ

科目名：日本文芸形成論特論Ⅰ／ Study of Formation of Japanese Literature(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

学期：2 学期， **単位数：**2

担当教員：横溝 博（教授）

講義コード：LM23402， **科目ナンバリング：**LJS-LIT601J， **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本文芸形成論研究演習Ⅳ 】

1. 授業題目：

日本文学史における和歌

2. Course Title (授業題目)：

Waka Poems in Japanese Literary History

3. 授業の目的と概要：

日本文学・日本文化において和歌とはどのような存在だったのか——。和歌そのものの鑑賞というのではなく、和歌なるものが、日本文学・文化を形成する上で果たす（果たしてきた）役割や機能、さらには日本における「和歌」もしくは「短歌」という文化そのものについて考えるのが目的である。古くは勅撰集、私家集、定数歌、歌論歌学、打聞、和歌説話、歌人、歌枕、等々のジャンルをめぐる議論や、物語における和歌、近代における和歌・短歌、現代人と和歌・短歌、儀礼の和歌、宗教と和歌、美術と和歌、和歌とジェンダー、世界文学の中での和歌・短歌、等々、社会文化史的な視点での議論まで、幅広くテーマを立てることで、和歌について様々な角度から考究し、和歌もしくは短歌というものの理解を深めることを目的とする。

4. 学習の到達目標：

資料の読解力と論述の説得力を高めるためのスキルを身につけ、和歌というテーマについて高度な教養を蓄える。また質疑応答に際してのディベートの力を養うことを目標とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス。次回以降の予定の確認と発表担当者の決定
2. 研究発表と質疑応答。
3. 研究発表と質疑応答。
4. 研究発表と質疑応答。
5. 研究発表と質疑応答。
6. 研究発表と質疑応答。
7. 研究発表と質疑応答。
8. 研究発表と質疑応答。
9. 研究発表と質疑応答。
10. 研究発表と質疑応答。
11. 研究発表と質疑応答。
12. 研究発表と質疑応答。
13. 研究発表と質疑応答。
14. 研究発表と質疑応答。
15. 研究発表と質疑応答。

6. 成績評価方法：

授業における発表（60%）・授業への参加（出席・質疑応答）（40%）

7. 教科書および参考書：

各回で考察対象とする作品のテキスト、参考文献を持参すること。

8. 授業時間外学習：

予め配布された資料（文学テキスト、発表レジュメ）を熟読し、先行研究にもあたるなどして、質問事項を用意しておくこと。

9. その他：なし

科目名：日本文芸形成論特論Ⅱ／ Study of Formation of Japanese Literature(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LM23503， 科目ナンバリング：LJS-LIT602J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 日本文芸形成論研究演習Ⅳ】

1. 授業題目：

日本文化史における歴史文芸

2. Course Title (授業題目)：

Reserch on the Japanese Literature which described History

3. 授業の目的と概要：

演習形式を取り入れた授業を通して、歴史を制約的な創造基盤として成立した日本の歴史文芸について、個々の作品の特質と表現史上、文化史上の意味を考究する。

4. 学習の到達目標：

文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、洞察力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに一歴史文芸とはー
2. 歴史文芸についての概説
3. 考察発表とそれにもとづく意見交換
4. 考察発表とそれにもとづく意見交換
5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
15. まとめ

6. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]

7. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

各回で考察する作品の記述をあらかじめ精読して授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

9. その他：なし

科目名：日本文芸形成論特論Ⅲ／ Study of Formation of Japanese Literature(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

学期：1 学期， **単位数：**2

担当教員：仁平 政人（准教授）

講義コード：LM13402， **科目ナンバリング：**LJS-LIT603J， **使用言語：**日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 日本文芸形成論研究演習Ⅲ 】

1. 授業題目：

「日本の文学理論」を読む

2. Course Title (授業題目)：

Read "Japanese Literary Theory"

3. 授業の目的と概要：

近代以降の日本においては、「文学」概念の編成と対応して、文学に属するとされる諸ジャンルの特性を捉え、あるいは理念的に方向づけようとする言説（小説論、描写論、物語論、詩的言語論、フィクション論、読者論…）が多様に生み出されてきた。こうした広い意味での「文学理論」的な言説が、どのような文脈と論理において成り立ち、またそれを今日においてどのように受け止めることができるのか、受講者による口頭発表と、それに基づいた全体での討論を通して検討する。

4. 学習の到達目標：

資料の読解力を高めるとともに、日本の文学理論についての教養を蓄え、自身の研究に応用する視点を獲得する。また、口頭発表と討議を通してディベート力を養うことを目標とする。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス

2. 担当者による口頭発表と討論
3. 担当者による口頭発表と討論
4. 担当者による口頭発表と討論
5. 担当者による口頭発表と討論
6. 担当者による口頭発表と討論
7. 担当者による口頭発表と討論
8. 担当者による口頭発表と討論
9. 担当者による口頭発表と討論
10. 担当者による口頭発表と討論
11. 担当者による口頭発表と討論
12. 担当者による口頭発表と討論
13. 担当者による口頭発表と討論
14. 担当者による口頭発表と討論
15. 担当者による口頭発表と討論

6. 成績評価方法：

授業における発表（60%）・授業への参加（出席・質疑応答）（40%）

7. 教科書および参考書：

参考書は大浦康介編『日本の文学理論 アンソロジー』（水声社）。また、関連文献は授業中に適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業で取り上げるテキストを受講者全員が事前に精読しておくこと。

9. その他：なし

科目名：日本文芸形成論特論Ⅳ／ Study of Formation of Japanese Literature(Advanced Lecture)Ⅳ

曜日・講時：前期集中 その他 連講

学期：集中(1 学期)、 単位数：2

担当教員：平田 英夫（非常勤講師）

講義コード：LM98808、 科目ナンバリング：LJS-LIT604J、 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 国文学特論Ⅲ 】

1. 授業題目：

西行の和歌表現とその詩想

2. Course Title (授業題目)：

Waka representation of Saigyō and its Idea of poetry

3. 授業の目的と概要：

東アジア・南アジアといった広大な世界の中で、辺境の俗語の一つでしかなかった和語が、各時代の多くの歌人たちによって繰り返し歌に詠まれ続けることで、それは〈やまとことば〉という概念を生み出し、そして歌語・歌ことばとして純化していき、美的イメージのみならず、歴史性、時には神話性まで纏った詩歌語として認識されるに至るのが平安末期である。和歌は、〈敷島の道〉として日本国のアイデンティティ形成にも大きな影響を持つが、そのような展開の中で、〈雑音〉的役割を担った歌人が西行であった。「西行」という存在は、正統なものに対する、所謂「もどき」のようなものであろうと考えている。雑多で難解な西行和歌を丹念に分析し考察するとともに、その発想を支えた院政期の複雑な時代性や宗教思想を捉えることにより、総合的に「西行」を論ずる。

4. 学習の到達目標：

- ・西行の和歌を通して、院政期の複雑な歴史・宗教・文学の諸相を学ぶことができる。
- ・転換期の和歌文学史を具体的な和歌の読みを通して学ぶことができる。
- ・日本語の多彩で特殊な表現性やそれを支える着想を理解することができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1・授業概要、摂関期・院政期の和歌文学史
- 2・西行の時代と宗教・思想
- 3・『後拾遺和歌集』を読む
- 4・『金葉和歌集』『詞花和歌集』から『千載和歌集』へ
- 5・西行と浄土思想
- 6・『聞書集』の地獄歌をめぐって
- 7・西行と花月
- 8・西行の恋歌
- 9・旅をする西行
- 10・讃岐の西行
- 11・『西行物語』を通してみる西行像
- 12・『撰集抄』の西行
- 13・高野山から伊勢へ ―『御裳濯河歌合』を読む
- 14・西行的なものと定家的なもの
- 15・まとめ

(授業の進捗状況を見て、多少の変更はあり得る。)

6. 成績評価方法：

レポート(70%)、授業出席状況(30%)

7. 教科書および参考書：

授業資料はプリントを配布する。

参考書は、(1) 西澤美仁『西行 魂の旅路』(角川ソフィア文庫・2013.4)、(2) 宇津木言行『山家集』(角川ソフィア文庫・2018.9)とする。

8. 授業時間外学習：

授業にて配布されたプリント類は、復習として再度、読んでおくこと。

9. その他：なし

科目名：日本文学総合演習Ⅰ／ Japanese Literature(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰、横溝 博、仁平 政人（教授、准教授）

講義コード：LM12403， 科目ナンバリング：LJS-LIT605J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 国文学研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：

日本文学史の考究とその論述

2. Course Title (授業題目)：

Research of History of Japanese Literature

3. 授業の目的と概要：

論文作成の実践にもとづく日本文学の作品、表現についての演習形式の授業を通して、個別の作品、表現の特質を明らかにし、その意義を広く文学史、文化史の中に位置づけて行く。

4. 学習の到達目標：

日本文学を着実に考究し、論述し、歴史的に意味づけるための高度で専門的な問題発見力、分析力、構想力を総合的に習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス（1）
2. ガイダンス（2）
3. 考察発表とそれにもとづく意見交換
4. 考察発表とそれにもとづく意見交換
5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
15. まとめ

6. 成績評価方法：

授業における発表〔60%〕・授業への参加〔40%〕

7. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しないが、各回で考察対象とする作品のテキストを各自で用意する。
参考書は、随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業で取り上げる作品とあらかじめ配布された資料を精読し、質問事項を用意しておくこと。

9. その他：なし

この授業はⅠ・Ⅱを連続して履修すること。

科目名：日本文学総合演習Ⅱ／ Japanese Literature(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰、横溝 博、仁平 政人（教授、准教授）

講義コード：LM22402， 科目ナンバリング：LJS-LIT606J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 国文学研究演習Ⅱ 】

1. 授業題目：

日本文学史の考究とその論述

2. Course Title (授業題目)：

Research of History of Japanese Literature

3. 授業の目的と概要：

論文作成の実践にもとづく日本文学の作品、表現についての演習形式の授業を通して、個別の作品、表現の特質を明らかにし、その意義を広く文学史、文化史の中に位置づけて行く。

4. 学習の到達目標：

日本文学を着実に考究し、論述し、歴史的に意味づけるための高度で専門的な問題発見力、分析力、構想力を総合的に習得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 考察発表とそれにもとづく意見交換
2. 考察発表とそれにもとづく意見交換
3. 考察発表とそれにもとづく意見交換
4. 考察発表とそれにもとづく意見交換
5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
15. まとめ

6. 成績評価方法：

授業における発表〔60%〕・授業への参加〔40%〕

7. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しないが、各回で考察対象とする作品のテキストを各自で用意する。
参考書は、随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業で取り上げる作品とあらかじめ配布された資料を精読し、質問事項を用意しておくこと。

9. その他：なし

この授業はⅠ・Ⅱを連続して履修すること。

科目名：日本古典文学研究演習Ⅰ／ Study of Japanese Classical Literature(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 月曜日 5講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：横溝 博（教授）

講義コード：LM11501， 科目ナンバリング：LJS-LIT607J， 使用言語：日本語

【(平成 30 年度以前入学者) 対応科目名： 国文学特論Ⅰ】

1. 授業題目：

『源氏物語』の探究

2. Course Title (授業題目)：

Study of "The Tale of Genji"

3. 授業の目的と概要：

『源氏物語』「竹河」巻を輪読する。担当者は割り当てられた範囲の【梗概】および【鑑賞】と【考察】をレジュメとしてまとめ、それを資料として用意し、事前に配布した上で発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

4. 学習の到達目標：

『源氏物語』「竹河」巻を精読することで、(1) 物語の虚構の方法や人物造型のありよう、語り、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 諸注釈、各種辞典(事典)類の活用の仕方を学び、作品読解に関わる基本的な知識を習得する。以上を通して、物語を「読む」力を高めることで、課題に研究的に取り組むための基本的な知識と技能を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス（発表者及びローテーション決定）
2. 講義（匂宮三帖と宇治十帖の関係について、玉鬘物語について）
3. 「竹河」巻の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
4. 「竹河」巻の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
5. 「竹河」巻の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
6. 「竹河」巻の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
7. 「竹河」巻の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
8. 「竹河」巻の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
9. 「竹河」巻の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
10. 「竹河」巻の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
11. 「竹河」巻の輪読
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
12. 「竹河」巻の輪読

- (1) 発表
- (2) 質疑応答
- (3) まとめ
- 13. 「竹河」巻の輪読
- (1) 発表
- (2) 質疑応答
- (3) まとめ
- 14. 「竹河」巻の輪読
- (1) 発表
- (2) 質疑応答
- (3) まとめ
- 15. 「竹河」巻の輪読
- (1) 発表
- (2) 質疑応答
- (3) まとめ

6. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート（発表のまとめ）の内容〔50%〕、授業への参加（質疑応答を含む）〔50%〕

7. 教科書および参考書：

テキストとして角川ソフィア文庫 玉上琢彌 訳注『源氏物語 第八巻（匂兵部卿～総角）』を用いるので、大学生協で購入のこと。また、参考書として中野幸一編『〈新装版〉常用 源氏物語要覧』（武蔵野書院、2012 年）がある。その他、参考文献は随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。

9. その他：なし

本演習は、第 6 セメスターも連続して履修すること。物語の展開を先取りせず、物語の筋をたどりながら読むことの面白さや興味を大事にしていきたいと思います。

科目名：日本古典文学研究演習Ⅱ／ Study of Japanese Classical Literature(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 5講時

学期：2 学期， 単位数：2

担当教員：横溝 博（教授）

講義コード：LM21501， 科目ナンバリング：LJS-LIT608J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 国文学特論Ⅱ 】

1. 授業題目：

『源氏物語』の探究

2. Course Title（授業題目）：

Study of "The Tale of Genji"

3. 授業の目的と概要：

『源氏物語』「総角」巻を輪読する。担当者は該当巻の【梗概】および【鑑賞】と【考察】をレジュメとしてまとめ、それを事前配布し、発表する。発表者が提起した問題点について、参加者全員で検討を加え、ブラッシュアップしていくことで、物語の読解力を高めていくことを目的とする。

4. 学習の到達目標：

『源氏物語』「総角」巻を輪読していくことで、(1) 登場人物の造型や語りの有りよう、和歌を含めた表現の様式、物語の構造等について理解を深める。(2) 准拠の問題や有職故実、風俗と文化についての理解を深める。以上を通して物語を読む力、批評する力を高めることで、課題に対して研究的に取り組むための応用力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 「総角」巻の輪読（一回分相当）
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ（以降同）
2. 「総角」巻の輪読（一回分相当）
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
3. 「総角」巻の輪読（一回分相当）
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
4. 「総角」巻の輪読（一回分相当）
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
5. 「総角」巻の輪読（一回分相当）
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
6. 「総角」巻の輪読（一回分相当）
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
7. 「総角」巻の輪読（一回分相当）
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
8. 「総角」巻の輪読（一回分相当）
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
9. 「総角」巻の輪読（一回分相当）
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
10. 「総角」巻の輪読（一回分相当）
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ

11. 「総角」巻の輪読（一回分相当）
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
12. 「総角」巻の輪読（一回分相当）
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
13. 「総角」巻の輪読（一回分相当）
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
14. 「総角」巻の輪読（一回分相当）
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ
15. 「総角」巻の輪読（一回分相当）
 - (1) 発表
 - (2) 質疑応答
 - (3) まとめ

6. 成績評価方法：

授業時の発表および期末レポート（発表のまとめ）の内容〔50%〕、授業への参加度合い〔50%〕

7. 教科書および参考書：

テキストとして角川ソフィア文庫 玉上琢彌 訳注『源氏物語 第八巻（匂兵部卿～総角）』を用いるので、大学生協で購入のこと。また、参考書として中野幸一編『〈新装版〉常用 源氏物語要覧』（武蔵野書院、2012年）がある。その他、参考文献は随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

毎回の輪読箇所が決まっている上、資料が事前に配布されているので、参加者はあらかじめ該当範囲を読み込んでおき、発表内容について自分なりに疑問点や質問事項を準備しておいた上で、授業に臨むこと。

9. その他：なし

本演習は、第5セメスターから連続して履修すること。物語の筋を先取りするのではなく、物語の進行に従いながら、その表現世界を丁寧に探求していきたいと思います。

科目名：日本古典文学研究演習Ⅲ／ Study of Japanese Classical Literature(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 木曜日 2講時

学期：1 学期， 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LM14203， 科目ナンバリング：LJS-LIT609J， 使用言語：日本語

【（平成 30 年度以前入学者）対応科目名： 日本文芸形成論研究演習Ⅴ】

1. 授業題目：

『太平記』の表現形成

2. Course Title（授業題目）：

Research on “Taiheiki（太平記）”

3. 授業の目的と概要：

演習形式の授業を通して、14 世紀の長期にわたる動乱を多様な形質の表現によって描き出した『太平記』の表現形成の問題を、広く文化的、社会的問題とかかわらせて考察する。

4. 学習の到達目標：

文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、表現力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. はじめに—『太平記』の時代—
2. 『太平記』の概要
3. 『太平記』の諸本
4. 『太平記』の研究史
5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
15. 考察発表とそれにもとづく意見交換

6. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート〔60%〕・授業への参加〔40%〕

7. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

各回で考察する『太平記』の記述をあらかじめ精読して授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

9. その他：なし

本演習のⅣも連続して履修すること。

科目名：日本古典文学研究演習Ⅳ／ Study of Japanese Classical Literature(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：佐倉 由泰（教授）

講義コード：LM24203， 科目ナンバリング：LJS-LIT610J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 日本文芸形成論研究演習Ⅵ】

1. 授業題目：

『太平記』の表現形成

2. Course Title (授業題目)：

Research on “Taiheiki (太平記)”

3. 授業の目的と概要：

演習形式の授業を通して、14世紀の長期にわたる動乱を多様な形質の表現によって描き出した『太平記』の表現形成の問題を、広く文化的、社会的問題とかかわらせて考察する。

4. 学習の到達目標：

文学、文化、社会について、発見的に思考し、語るための高度で専門的な読解力、分析力、表現力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 考察発表とそれにもとづく意見交換
2. 考察発表とそれにもとづく意見交換
3. 考察発表とそれにもとづく意見交換
4. 考察発表とそれにもとづく意見交換
5. 考察発表とそれにもとづく意見交換
6. 考察発表とそれにもとづく意見交換
7. 考察発表とそれにもとづく意見交換
8. 考察発表とそれにもとづく意見交換
9. 考察発表とそれにもとづく意見交換
10. 考察発表とそれにもとづく意見交換
11. 考察発表とそれにもとづく意見交換
12. 考察発表とそれにもとづく意見交換
13. 考察発表とそれにもとづく意見交換
14. 考察発表とそれにもとづく意見交換
15. まとめ

6. 成績評価方法：

授業時の発表およびレポート [60%]・授業への参加 [40%]

7. 教科書および参考書：

テキストは、特に指定しない。参考書は、授業時に随時紹介する。

8. 授業時間外学習：

各回で考察する『太平記』の記述をあらかじめ精読して授業に臨むこと。また、授業を通して関心を持った問題について、作品の本文や参考文献を進んで幅広く読んで、考察を深めて行くことが重要である。

9. その他：なし

本演習のⅢから連続して履修すること。

科目名：日本近代文学研究演習Ⅰ／ Study of Japanese Modern Literature(Advanced Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

学期：1学期， 単位数：2

担当教員：仁平 政人（准教授）

講義コード：LM13202， 科目ナンバリング：LJS-LIT611J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 日本文芸形成論研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：

戦後の短編小説の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on Postwar Japanese Short Stories

3. 授業の目的と概要：

第二次世界大戦以後の日本文学の多様なあり方について、主に文芸雑誌『群像』（1946年～）に掲載された短編小説を検討対象として、文化的・社会的なコンテクストを視野に入れて分析し、その特性や意義を考察する。

受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおり、小説の精緻な読解を試みる。本セメスターでは、主として1960年代前半までの小説を取り上げる。

4. 学習の到達目標：

- (1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。
- (2) 戦後における文学の多様な展開とその特質について理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 「戦後文学」の問題系
3. 担当者による口頭発表と討論
4. 担当者による口頭発表と討論
5. 担当者による口頭発表と討論
6. 担当者による口頭発表と討論
7. 担当者による口頭発表と討論
8. 担当者による口頭発表と討論
9. 担当者による口頭発表と討論
10. 担当者による口頭発表と討論
11. 担当者による口頭発表と討論
12. 担当者による口頭発表と討論
13. 担当者による口頭発表と討論
14. 担当者による口頭発表と討論
15. 担当者による口頭発表と討論

6. 成績評価方法：

成績評価方法：授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）

7. 教科書および参考書：

参考書に群像編集部編『群像短編名作選 1949～1969』（講談社文芸文庫）。その他の参考書は適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておくこと。

9. その他：なし

本演習は2学期も連続して履修すること。

科目名：日本近代文学研究演習Ⅱ／ Study of Japanese Modern Literature(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

学期：2学期， 単位数：2

担当教員：仁平 政人（准教授）

講義コード：LM23202， 科目ナンバリング：LJS-LIT612J， 使用言語：日本語

【(平成30年度以前入学者) 対応科目名： 日本文芸形成論研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

戦後の短編小説の研究

2. Course Title (授業題目)：

Study on Postwar Japanese Short Stories

3. 授業の目的と概要：

第二次世界大戦以後の日本文学の多様なあり方について、主に文芸雑誌『群像』（1946年～）に掲載された短編小説を検討対象として、文化的・社会的なコンテクストを視野に入れて分析し、その特性や意義を考察する。

受講者は、担当する作品についての分析の結果を資料に基づいて発表する。発表内容を踏まえた全体での討論をとおり、小説の精緻な読解を試みる。本セメスターでは、主として1960年代前半までの小説を取り上げる。

4. 学習の到達目標：

- (1) 文学作品の分析と立論、発表の方法を習得する。
- (2) 戦後における文学の多様な展開とその特質について理解を深める。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. 「戦後文学」の問題系
3. 担当者による口頭発表と討論
4. 担当者による口頭発表と討論
5. 担当者による口頭発表と討論
6. 担当者による口頭発表と討論
7. 担当者による口頭発表と討論
8. 担当者による口頭発表と討論
9. 担当者による口頭発表と討論
10. 担当者による口頭発表と討論
11. 担当者による口頭発表と討論
12. 担当者による口頭発表と討論
13. 担当者による口頭発表と討論
14. 担当者による口頭発表と討論
15. 担当者による口頭発表と討論

6. 成績評価方法：

成績評価方法：授業における発表とレポート（70%）、授業への積極的参加（30%）

7. 教科書および参考書：

参考書に群像編集部編『群像短編名作選 1949～1969』（講談社文芸文庫）。その他の参考書は適宜紹介する。

8. 授業時間外学習：

授業で取り上げる作品を受講者全員が事前に精読しておくこと。

9. その他：なし

本演習は1学期から連続して履修すること。